



平成19年10月26日NO9 教職員の評価特集号
 京都市立室町小学校 校長 倉中 増夫
 (075)431-0358 Fax(075)431-0359
 学校HP <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/muromachi-s/>

静かに秋も深まり、山の木々も黄金色へと輝いてまいりました。さて、前期の教職員の自己評価についてお知らせいたします。6つの項目について成果と課題、解決のための方策について、教員だけでなく事務専門幹・管理用務員・給食調理員も書ける項目はすべて答えています。まだまだ不十分な面もありますが、教職員がどのような考えで取組を進めたのかお分かりいただけたらと思います。前期の評価をいかし、後期の取組にいかしていきます。

1 めざす子ども像について * 評価のA・B・C・Dは%で表しています。

評価項目		評価			
考える子・表現できる子・やさしい子・がんばる子に、子どもが育ってきている。		A	B	C	D
		5	90	5	0
成果・課題と解決のための方策について	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学校生活の中で指導し、できている児童がいると全員の場でほめ、子どもたちに響くよう取り組んできた。その結果、友だちに注意したりやさしく接したりする子が増えてきたように思います。ただ、考える子・がんばる子については個人差が見られます。後期も励まし、よい面を伸ばしていきたいと思います。 算数科の授業を中心に自分の考えをみんなの前で発表し、お互いに高め合いつつある。 日々の学級指導の中で、はじめをつけさせるよう努力してきた。また、自分自身の言動で一人一人を大切にすることができているかを意識してきた。 お友だちに対してやさしい言葉をかける子ども多いが、きついことを言う子ども多い。言葉の大切さをもっと伝えていきたい。 授業中発言できる子が増えてきた。友だちとのかかわり方をもっと一人一人考えられるように機会をとらえてできる子をほめていく。 育ってきている子と、まだ育っていない子がいる。子ども同士で協力して活動する場を増やし、思いやりのある子どもを育てたい。 4月当初と比べて、自分の考えを発表するようになってきたと思うが、まだ自分で考えていくということが弱い。人と同じでなければ不安という面が見られるので一人一人違っていることの大切さを知らせていきたい。 4月当初から半年経ち、めざす子ども像に少しずつ育ってきていると思う。授業・行事の中で課題を明確にし半年後を目標に指導していきたい。 相手のことを考え声をかけることができる児童が少しずつ増えてきた。自分の考えを表現することが苦手な児童がまだ多い。発表の仕方や発表の聞き方が定着するように、授業内で発表カードなどをこれまで以上に利用し力を向上させたい。 「やさしい子」「がんばる子」には育ってきているが、「表現できる子」については、まだ不十分である。 考える子、やさしい子、がんばる子は育っている。しかし、自分の考えを表現する子がまだ不十分に思う。もっとみんなが発表できるように授業の工夫と声かけをしていきたい。 4月当初に比べると少しずつの変化は見られてきている。今後も引き続きできるように指導していく必要がある。 引き続き自分の言葉で自分のことを話せるように支援したい。いいところ、がんばったところを見つけほめるようにしたい。 クラスによって差が見られるが、がんばって学習しようという意欲は育ってきているように思う。ただし、なかなか家庭学習にまで結び付かない。算数の学習時は、できるだけ多くの児童が発言し、集団解決で考えを広め深められるよう、自力解決の考える時間を大切にするとともに、何でも発言できる雰囲気をつくりたい。 毎日の児童とのあいさつを積極的に行うことで、児童の方から元気にあいさつしてくれるようになってきたと思う。 朝の登校時に元気よく「おはようございます」ができるような子どもになってほしいと思います。 朝の出動時には、子どもへのあいさつを進んでしていった。 				

2 学年目標・学級目標について

評価項目		評価			
		A	B	C	D
学年や学級の目標が子どもたちに意識され、変容が見られてきた。		8	84	8	0
成果・課題と解決のための方策について	<ul style="list-style-type: none"> 入学当初に比べると回りが見られるようになり、自分で考え行動したり、友だちに目を向けお互いに高め合える場も見られるようになってきたように思います。今後も仲間意識を高めていきたいと思っています。 「みんな仲良く頑張る子」の目標を常に意識させてきた。困っている友だちに優しく声かけしたり、手助けしてくれたりする子を認め、クラスの中でほめてきた。後期は帰りの会で友だちのよいとこみつけを発表させていきたい。 仲間意識を育て、互いに認め合って思いやりをもてるように言葉づかいや行動で気になることは見逃さず指導するよう努力した。 自分の考えをなるべくたくさんの子どもが発言できるように学習の導入で親しみやすい発問にし発言しやすいように工夫した。 中学年になりクラスで力を合わせてやろうという意識が育ってきている。 学年目標・学級目標という大きな目標をベースとして班ごとの目標をつくる。子どもたちが達成しやすい小目標を立て、目標達成の満足感を味わせたい。 意識させるというところまで至っていない。 学級目標については日頃意識し、学級行事等に取り組んできたので子どもたちの中に意識されてきていると思う。授業、学年行事等を通して、さらに力をつけさせていきたい。 学年や学級の目標を意識することができていない児童が多い。行事や授業でこれまで以上に意識をして活動することができるように、目標を確認して活動をすることができる場面を増やしていきたい。 最高学年として、自分で考え行動する自律心が育ちつつある。しかし、表現できる子についてはまだ力が発揮できていないように思う。 大きな変容はあまり見られていないが、少しずつ意識し努力しようとしているので続けていくことが大切であると思う。 				

3 学習指導について

評価項目		評価			
		A	B	C	D
各教科の基礎基本の内容が定着するよう、指導の充実に努めた。		8	92	0	0
成果・課題と解決のための方策について	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本となるべき内容が多いので、きめ細かい指導、個別指導を取り組んでいます。後期はその上になぜそのような答えがでるのかなぜそう考えるかを理論だてて表現できるように取り組んでいきたいと思っています。 子どもが興味をもち意欲的に取り組むよう教材を工夫してきた。授業中理解しにくい児童については放課後残し、理解できるように努めてきた。 前期はOHCの使用やホワイトボードの利用、また教科書の拡大コピーなどを利用して、より分かりやすく工夫した。 学習の中で分からなかったところは、休み時間に一緒に考え、学習の定着に努めた。 計算、漢字、音読はくり返し取り組んできた。1割程度の児童に個別の支援が必要と感じるので毎日の帯時間の活用をはかっていきたい。 集団解決と自力解決が相乗効果をうむようにもっと工夫したい。例えば授業の説明は教師の作った言葉よりも子どもたちが自己解決の過程で気付いた言葉を使っていきたい。 教材研究をし用意をしたつもりだが、指導不足。もっと、集中できるような環境づくりが必要。 基礎・基本の定着、表現力を育てることは少しずつ定着してきていると思う。学力をつけるための授業改善に努めたい。高学年としての自学自習の力や個別指導の必要な児童の学力向上に努めたい。 色囲みなどを使いノートをとることができる児童が増えた。今後更なる基礎基本の内容が定着するよう、発表の仕方や発表の聞き方を工夫して教えていきたい。 課題や調べたこと考えたことが分かりやすいノートの取り方を指導してきた。基礎基本が定着していない児童の個別指導を進めたい。 				

- のたい。
- ・ 少人数の授業の形態など個に合った学習ができるようにしてきた。しかし、まだ定着が不十分と思われる児童に関しては繰り返し復習をし定着を図りたい。
- ・ 国語・算数科においては、本人たちも「がんばってしよう」という気持ちをもっているし変化も出てきている。

4 生徒指導・児童理解について

評 価 項 目		評 価			
一人一人の子どもの願いや生活背景を把握し、よいところを見つけ認めてきた。		A	B	C	D
		26	64	10	0
成果・課題と解決のための方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけほめるところを見つけて全体の場で考えさせて次の行動につながるように広がるように時間をとってきました。今後も続けていきたいと思えます。 ・ 一人一人の子どもに声をかけ、よいところを見つけみんなの前でほめるようにしてきた。 ・ 良いところは認め、時には全体の前で時には個々にほめるようにしてきた。 ・ よいところを見つけたら、すぐにほめるように努めた。どの子に声をかけていないか日々チェックし、声かけをするようにした。 ・ ここは学級経営の中で一番大切にしてきているところである。一人一人のよさや個性をクラスで広めてこれからも支援していく。 ・ どんな些細なことでも、子どもの声にしっかり耳を傾けてきた。児童理解のための専用ノートをつくり頑張ってきた。 ・ 見つけて認めてきたつもりだが、不十分な面もあった。 ・ 授業の中だけでなく、子どもたちに声かけをし一人一人の頑張りに対してできるだけほめるよう心がけてきた。生徒指導上の問題行動に対してはすぐ解決することに努めていきたい。子どもたちの変化や保護者の願いに対して敏感、丁寧に対応していきたい。 ・ 子どもの思いをもう少し読み取ることができるよう、子どもが教師に声をかけやすい学級の雰囲気をつくってきたい。 ・ お互いに認め合う雰囲気づくりに努力した。 ・ 児童間の人間関係が把握できるように常に気を配り注意してきた。 ・ 一人一人の良い点、良い所を認めてほめ、自信につなげられるよう努め、やる気を出させるようにしている。 ・ 問題が起こった時、その子の気持ちや思いを受け入れるよう努力し、行動面に対していけないことはいけないと指導するよう心がけた。 ・ 算数の学習時間だけでなく、宿題や毎時のノートなどにも励ましの書き込みをしたり、声かけをしたりすることで学習に対する児童の前向きな姿が少しずつ見られるようになってきている。 ・ かかわる機会は少ないが、その都度ほめたり、注意したりして子どもたちを理解しようとした。 ・ 一人でも多くの児童とかかわれる様にと、挨拶、会話を大切にしてきた。少しずつではあるが児童の方からも声をかけてくれるようになってきた。 ・ 友だちと仲良く遊んでいる場面で、声をかけ児童を理解するようにした。 ・ 食器を返却している子どもたち、時間内に食べられず後で食器をもってくる子どもたちに話しかけ触れあいをもつようにした。 				

5 家庭との連携

評 価 項 目		評 価			
保護者の思いや願いを把握し「学級通信」や家庭訪問で家庭との相互理解を図った。		A	B	C	D
		30	63	7	0

